

機関番号：14101
 研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2009～2010
 課題番号：21700269
 研究課題名（和文）大学教育における教員と図書館員の連携：ウエスタン・オンタリオ大学のケーススタディ
 研究課題名（Building Collaboration between Faculty Members and Librarians in University Education: A Case Study of the University of Western Ontario）

研究代表者
 長澤 多代（NAGASAWA TAYO）
 三重大学・高等教育創造開発センター・准教授
 研究者番号：30346944

研究成果の概要（和文）：2年間の調査で得たデータをもとに、記述的ケース・スタディと解釈的ケース・スタディを作成している。2009年度には、文献調査と訪問調査によって、ウエスタン・オンタリオ大学に関する基礎的な情報を得た。2010年度には、記述的ケース・スタディを学会で発表するとともに、追跡調査を実施した。現在、この記述的ケース・スタディをもとに、解釈的ケース・スタディを作成し、ここで得られたモデルを他大学のケース・スタディで得られたモデルと比較検討する準備をしている。

研究成果の概要（英文）：Based on data collected, a descriptive and an interpretive case studies have been in progress over the last two years. In 2009, general information on the University of Western Ontario was collected through literature reviews and field work. In 2010, a descriptive case study, which was based on data collected in 2009, was presented to the Japan Society of Library and Information Science. In addition, further information was collected through follow-up field work. Based on data collected both in 2009 and 2010, a descriptive case study is going to be completed and an interpretive one will be prepared based on it. Furthermore, a model constructed based on the interpretive one will be compared with others which were constructed based on other case studies such as those of Earlham College and the University of Michigan.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,000,000	600,000	2,600,000

研究分野：図書館情報学

科研費の分科・細目：情報学・図書館情報学・人文社会情報学

キーワード：情報リテラシー教育，学習支援，教育支援，教育開発センター，ファカルティ・ディベロップメント，コーディネーター，教職協働

1. 研究開始当初の背景

1990年代より、日本の大学では、教育の質保証を目指して大規模な教育改革が進められている。大学図書館（以下、図書館という）は多様な取り組みによって教育の質保証に貢献することができる。

その主な取り組みとして、主体的な情報利用者として効果的・効率的に情報を利用する学生の情報リテラシーの育成を目指す情報リテラシー教育（学習支援）がある。だが、多くの図書館関係者（図書館員及び図書館情報学専攻教員）が指摘してきた問題として、授業と図書館の関連づけや教員と図書館員の連携がなければ学習支援による学習成果は十分に得られないことがある。

十分な学習成果を得られる学習支援のあり方を検討するためには、大学の教育活動における教員と図書館員の連携のあり方について研究することが重要である。また、その中で、図書館が実施する教育開発（ファカルティ・ディベロップメント（FD））関係の活動である教員対象の教育活動の支援（教育支援）が、両者の連携をどのように促進してきたのかを明らかにすることが重要である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、カナダのウエスタン・オンタリオ大学（The University of Western Ontario）のケース・スタディによって、次の研究課題を明らかにすることである。

- ・ 図書館が実施する学生の学習活動の支援（学習支援）及び教員の教育活動の支援（教育支援）において、教員と図書館員はどのように連携しているのか。
- ・ 図書館員による教員へのアプローチの中で、教員と図書館員の連携構築を促進するアプローチは何か。
- ・ 教員と図書館員の連携構築を促進する図書館内外の条件は何か。

3. 研究の方法

本研究が計画しているのは、2年間（2009年度及び2010年度）に、ウエスタン・オンタリオ大学の質的なケース・スタディを実施し、その成果を、記述的ケース・スタディ及び解釈的ケース・スタディとして学会での口頭発表や論文によって公表することである。また、ここで得たモデルをこれまでに取り組んできた米国のアールム・カレッジ（Earlham College）やミシガン大学（the University of Michigan）のケース・スタディによって得られたモデルと比較分析し、より汎用性の高い

モデルを構築することである。

具体的な研究方法は、次のとおりである。

2009年度 ウエスタン・オンタリオ大学に開する詳細な情報を得るために、文献調査及び訪問調査を実施した。文献調査では、公開された情報源（図書、雑誌論文、Web上の情報）で得られる大学の教育目標や教育活動、教育支援センター（Teaching Support Centre）及び図書館が実施する学習・教育支援に関する情報を収集した。訪問調査では、上記の研究課題に関する情報を収集した。

収集した情報は次のとおりである。

- ・ 関係者への聞き取りによって得られる情報（オープン・エンドな質問）
- ・ 運営・管理関係の資料記録
- ・ 管理文書：会議の議題、提案、進捗レポートなど
- ・ 広報誌に掲載された関連記事
- ・ 統計資料
- ・ 事例報告、雑誌論文、学位論文、図書
- ・ 物理的環境に関する情報
- ・ 直接観察によって得られた情報

聞き取りの主な対象は次のとおりである。

- ・ 教育支援センターに配置された図書館員
- ・ 教育支援センターに図書館員を配置するための意思決定に関わった大学関係者
- ・ 教育支援センターの関係者
- ・ 附属図書館の関係者
- ・ 図書館が提供する学習・教育支援を受けた経験を持つ教員

具体的な聞き取りの対象として、教育支援センターに配属された図書館員（情報リテラシー教育コーディネーター）、教育支援センターのセンター長、図書館の課長、学習支援や教育支援を担当する図書館員がいる。

ここで収集した情報を整理して、まずは、理論の検証も理論の構築も目的としない記述的ケース・スタディを作成した。

2010年度 ウエスタン・オンタリオ大学の追跡調査を実施し、更なる情報を収集した。具体的には、情報リテラシー教育コーディネーター、教育支援のセンター長への追加、学習支援や教育支援を担当する図書館員への聞き取りである。学習支援や教育支援を受けた経験を持つ教員への聞き取りができなかったために、これについては、今後機会を見

つけて実施する予定である。

追跡調査によって得られたこれらの情報をもとに、2009年度に着手した記述的ケース・スタディを作成した。そして、これを国内の学会(日本図書館情報学会)で発表した。

現在、この記述的ケース・スタディをもとに、解釈的ケース・スタディを作成するための準備をしている。解釈的ケース・スタディについては、テーマ的コード化の手法を用いて、データの分析を進めることを予定している。

4. 研究成果

2009年度及び2010年度の研究の主な成果は次のとおりである。

- ・ウエスタン・オンタリオ大学、教育支援センター、図書館に関する全般的な情報を収集することができた。
- ・図書館員が情報リテラシー教育コーディネーターとして、教育支援センターで働くことになった背景を明らかにすることができた。
- ・情報リテラシー教育コーディネーターの業務内容、活動内容を明らかにすることができた。
- ・教育支援センターと図書館の連携の実態の全容を明らかにすることができた。
- ・図書館員が実施する学習支援や教育支援の具体的な活動内容を知ることができた。
- ・教育支援センターが実施する教育開発に関する活動内容と、図書館員とのかかわりを明らかにすることができた。
- ・以上を内容に含む記述的ケース・スタディを作成し、国内の図書館情報学関係の学会で口頭発表をし、国内の図書館情報学専攻の研究者とその成果を共有することができた。

今後の課題は次のとおりである。

- ・ 前述のように、学習支援や教育支援を受けた経験のある教員への聞き取りができなかった。今後に機会を見つけて、教員への聞き取りを実施することを予定している。
- ・ 新任教員オリエンテーションの観察ができなかった。そのために、今後に機会を見つけて、このオリエンテーションを参与観察することを予定している。
- ・ 記述的ケース・スタディについて、学会発表をしたが、論文という形式で公表していない。論文として完成させ、まずは国内の学会に投稿する。
- ・ 解釈的ケース・スタディについて、ラフなアイデア・メモを作成しているが、

学会での口頭発表や論文での発表をしていない。記述的ケース・スタディをもとに、解釈的ケース・スタディを完成させて、論文として完成させ、まずは国内の学会に投稿する。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

- 1) 長澤多代「ウエスタン・オンタリオ大学における教員と図書館員の連携に関するケース・スタディ：教育支援センターに図書館員を配属した背景を中心に」『第58回 日本図書館情報学会 研究大会発表要綱』2010, p.109-112. [査読なし]

〔学会発表〕(計12件)

本研究のテーマに直接的に関係する学会等での発表(招待講演を含む)は次のとおりである。

- 1) NAGASAWA Tayo "Building Collaboration between Faculty Members and Librarians: Strategic Approaches" [Invited Lecture] Research Colloquium, the School of Library and Information Science, the University of Alberta, Edmonton (Alberta, Canada), 2010. 10. 20.
- 2) 長澤多代「教員との連携による大学図書館のサービスづくり」[招待講演(基調講演)] 第51回中国四国地区大学図書館協議会研究集会, 中国四国地区大学図書館協議会, 広島大学, 2010. 10. 14.
- 3) 長澤多代「ウエスタン・オンタリオ大学における教員と図書館員の連携に関するケース・スタディ：教育支援センターに図書館員を配属した背景を中心に」第58回日本図書館情報学大学研究大会, 藤女子大学, 2010. 10. 10.
- 4) 長澤多代「効果的な情報リテラシー教育を目指して：教育活動における教員と図書館員の連携」[招待講演] 大図研京都ワンディセミナー, 大学図書館問題研究会京都支部, 京大会館, 2010. 6. 12.
- 5) 長澤多代「大学図書館の学習・教育支援機能とFD」[招待講演] 皇學館大学FD, 皇學館大学, 2010. 6. 10.
- 6) 長澤多代「課題探求能力の育成を支援する大学図書館の取り組み：三重大学の附属図書館が供する学習支援の例をもとに」[パネルディスカッション(パネリスト)] 大学教育改革フォーラム in 東海 2010「大学の学習支援における図書館の可能性」, 名古屋大学, 2010. 3. 13.
- 7) 長澤多代「大学教育における教員と図書館員の協力関係の構築」[招待講演] 京大

学附属図書館研究開発室，情報リテラシー教育・講習研究会，京都大学，2009. 11. 6.

8) 長澤多代「教員と図書館員の連携による学術情報リテラシー教育」〔招待講演（講義）〕国立情報学研究所，平成 21 年度学術情報リテラシー教育担当者研修，大阪大学，2009. 10. 21.

9) 長澤多代「課題探求型学習における情報利用教育：三重大学における「4 つの力」スタートアップセミナーの事例をもとに」〔招待講演〕日本図書館協会図書館利用教育委員会，第 14 回図書館利用教育実践セミナー，日本図書館協会会館，2009. 9. 25.

10) 長澤多代「ライティング教育を基点とした大学図書館における学習支援と教育支援の展開」〔招待講演〕名古屋大学附属図書館研究開発室第 36 回オープンレクチャー，名古屋大学，2009. 9. 18.

11) NAGASAWA Tayo "Factors in Developing Partnerships between Faculty Members and Librarians in Higher Education" [Poster Session] IFLA World Library and Information Congress, Milan (Italy), 2009. 8. 25-26.

12) 長澤多代「大学における教育の質保証と大学図書館による学習・教育支援のアプローチ」〔招待講演〕平成 21 年度／第 29 回日本大学図書館業務研修会，日本大学会館，2009. 8. 3.

〔図書〕（計 1 件）

1) 長澤多代「学習支援・教育支援としての指導サービス：日米における事例」，日本図書館協会図書館利用教育委員会編『情報リテラシー教育の実践：すべての図書館で利用教育を』日本図書館協会，2010，p. 109-127. (JLA 図書館実践シリーズ，14)

〔その他〕

ホームページ等

1) 研究成果：長澤多代

<http://www.hedc.mie-u.ac.jp/nagasawa/>
(三重大学高等教育創造開発センター)

2) 研究成果：長澤多代

<http://researchmap.jp/3770/>

(Researchmap)

3) 発表スライド：「教員と図書館員の連携による学術情報リテラシー教育」平成 21 年度学術情報リテラシー教育担当者研修.
<http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/literacy/h21/curritxt.html>

4) 発表ポスター：“Factors in Developing Partnerships between Faculty Members and Librarians in Higher Education” IFLA World Library and Information

Congress in 2009.

<http://miuse.mie-u.ac.jp:8080/handle/10076/10465> (三重大学附属図書館リポジトリ)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

長澤 多代 (NAGASAWA TAYO)

三重大学・高等教育創造開発センター・准教授

研究者番号：30346944

(2) 研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし ()

研究者番号：